
いいかげんな歌

はるみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いいかげんな歌

【Nコード】

N8926F

【作者名】

はるみ

【あらすじ】

歌を聞いてキミを想う詩を綴ります。

ボクの背中はいよ

ボクが背負っている荷物は、軽くないのは分かってんだよ

ボクの過ちが軽くないことも分かってんだよ

だけど

だけど、背負って間違って歩いてきた道の途中にキミがいたんだ

蹲って我慢して笑ってるキミがいたんだよ

キミの背中やお腹にあるものが大切なモノなのは、分かってんだよ

そしてキミの来た道がデコボコ道なのも分かってんだよ

でも、交わっちゃったんだ

交わることなんてないと思っていたボクとキミの道が交わっちゃったんだ

ほんのちよつと違っていたら、出会うことなくすれ違わずのボクとキミ

蹲るキミの横をボクは黙って通り過ぐすことができなかったんだ

これから先の道はデコボコになっちゃうかもしれないよ

もしかしたら、すげー登り坂かもしれないし

びびるほどの急な下りかもしれない

でも、蹲るキミの荷物を背負って歩かせてくれよ

全部、全部、

二人の荷物を降ろして、背負い直せば、きっと大丈夫だよ

ボクは弱虫だけど背中は大いって知ってるだろう

キミが励ましてくれれば、きっとキミの荷物も背負って歩けるよ

だから、これからは同じ道を歩こうよ

キセキ

キセキって信じる？

ボクは信じるさ、だから信じようよ

ボクとキミが出逢ったのは在り来たりでキセキなんて呼べるもんじやないとしたって、この先にはキセキが待っているんだと思うよ

「そんなことより、どうするの」

なんて言っなよ

今はキセキの話なんだからさ

「だって」

なんて言っなよ

「だって」で始まったんだから

初めてキミの右手とボクの左手を繋いだときのことを覚えてる？

あの時からボクはずっとキミと一緒に居たいと思ったんだよ

キミの右手を離したくないって思ったんだよ

それから、ずっとちょっとずつ形は変わったけど、ずっと大好きは変わらない

きつと、昨日よりも明日のほうが好きになってると思うんだよ

時々、忘れちゃうけど本当はいつも思ってたんだよ

『ありがとう』

ってね。

こんなボクを好きになってくれて

こんなボクを信じてくれて

こんなボクを応援してくれて

きつと、キミがいなかったらへこたれてることなんて、いっぱいあったんだよ

忘れちゃうこともあるけど

『大好き』で『ありがとう』なんだ

ボクの夢が叶うのはキセキなのかもしれないけど

キミが信じていてくれればきつと叶う気がするよ

だから、もうちょっと待っててね

キミに好きななってもらったキセキを、もう一度起こしてみせるさ

きつとボクは何十年もキミを愛し続けるキセキも信じてる

ずっとボクの左手は右の手を引っ張っていくよ

生まれてこなければ

生まれてこなければ良かったってキミは言っただね

死んでしまいたいとキミは悲しむんだね

自分がいなければ傷つかないで済む人がいると思っているんだね

キミは生まれてきて、恋をして裏切られて傷ついて

そして、また恋をして

傷つけて

どんなに頑張っても、どんなに涙を流しても

キミが思うように幸せはやってこないから

真面目が下手くそなキミは、どうにもならないことに嘆き悲しむ

僕もそうだよ

面倒くさがりな僕は、生きるのが面倒

僕が望むような自由は、この星には存在しないみたいだ

例えば、戦争の無い世の中が存在しないように

なんでだろうね？

人は生きていると、知らず知らずのうちに人を憎み傷つける

ただ、何もない幸せを見つけれないんだ

キミは生まれてこなければ良かったという

人を傷つけたくないと涙を流す

でもね

僕はキミが何をしようと傷ついたりしないよ

キミが何を思っていたとしても悲しんだりしないよ

僕は人を傷つけ、裏切って生きている

今までも、きつとこれからも

だから、僕は傷ついたりしないんだ

だからね

安心して僕を傷つけて

もしも、僕といることがキミの心の傷なら

僕を傷つけて欲しい

キミが流す涙の数より、僕の血を流して欲しい

生まれて来なければ良かったね

僕もキミも

でも、

生まれなければ出会えなかった

生まれなければ出会わなかった

おやすみ

そして

明日もきっと

おはようと言えるよ

生きているからね

鬼ごっこ

鬼ごっこは

夕焼け小焼けでみな帰る

夕げに呼ばれてみな帰る

呼ばれないのは誰かしら

ひとりぼっちで鬼ごっこ

いつまでたっても、鬼のまま

あそこにも、ここにもだれもおりません

みんなおうちに帰ります

キミとボクとの鬼ごっこ

終わること無い鬼ごっこ

追いかけて

追われて

キミが鬼

ボクが鬼

追いかけて

追われ続けて

いつまでたつても終わらない

もう、夕焼けが沈むね

最後に鬼になるのはボク

夕焼け小焼けで

鬼がボク

次は月まで鬼ごっこ

良かった

キミが最後の鬼じゃなくて

『君を忘れたくないの歌』

君を忘れたくないんだ

どうすれば、ずっと君を好きでいられるんだろう

君を好きでいることに、時々挫折そうになるけど

それでも、君を好きでいたいんだ

君の記憶が、僕の上に誰かを上書きしたって

僕は君を好きでいたいんだ

ちゃんと、大切なフォルダーに保存しておきたいんだ

もちろんパスワードをかけてね

僕に誰か好きな人が出来たとしても

君のことを思い出さない日なんてきつとないんだ

でも、すっかりボケてしまって、君のことを忘れそうになったら

そのときは、フォルダーを開けて思い出すよ

君が僕にとって一番好きになった人だってこと

全然、似合わない二人が確かにキスをしたことを

パスワードは・・・・・・・・あつ 忘れちゃった

でも、きつと君のこと

君が笑ったこと

君と食べたもの

君といた所

全部、全部忘れないと思うんだ

女々しい歌

【眠れない夜】

昼寝をし過ぎて眠れない

テレビで外国のSF番組を見ても君のことを考える

果たして君の恋人に僕はふさわしいのだろうか

果たして君は僕を好きなのだろうか

君を大好きでいたい僕と

もう君を思い出にしたいと思う僕がいる

だって、君には君にふさわしい男がいるって分かってるから

深夜に考えることって女々しいよね

あつ、僕は昼間も女々しいことばかり考えているんだけどね

君は知ってるけどね

僕が女々しい歌が好きなことも

本当はね、もう恋はしないって思ってたんだ

正確には、苦しくなるような恋はしないってね

ちよつと楽しくなる程度に人を好きになって

その人に、ちよつと好きになって貰えればいい

そんな程度に思ってたんだよ

なんとも、間抜けだね

これ以上、悲しんで後悔する恋をしないと思っていた恋を失ったのに

それ以上に苦しくなるほどに人を好きになるなんてね

君は優しいよね

そんな僕の苦しみから解放してくれようとしてくれたんだから

でも、苦しみからは、そう簡単には開放されそうもないよ

僕は女々しいからね

【なんてこった】

字数が足りなくて、もっと女々しい話を続けなくちゃいけないなんてね

どうせ君は読みはしないからいいけどさ

僕はね

僕はね

実は僕はね

いつも君に嘘ばかりついてるんだ

だから、僕の言うことなんて信じちゃいけないよ

でもね、嘘つきな僕がついた最高の嘘はね

それは教えないよ

今はまだね

僕のおマジナイ

【ぼくのおまじない】

僕と彼女は遠距離で恋愛してるから、彼女の毎日の様子はメールでしか分からない

時々、会える時は貪るように彼女を求める

だけど、どんなに求めても足りることがなくて

話したいこともいっぱいあるのに会つと全部どうでも良くなつてしまふ

だけど、また逢えない日が続くと話したいことがいっぱいになるんだ

どんなに抱きしめても、どんなに話しても足りないのは需要と供給のバランスが悪いから

僕が彼女を抱きしめたいと思うのが100だとすると、彼女を抱きしめることができるのは5か10

せいぜい多く見積もっても12だと思っている

ねえ、知っている？ 僕のおまじない

君に会えない時の僕のおまじない

『あと五年したら毎日飽きるほど君を抱きしめる』

僕が寂しい時のおまじない

ねえ、君は憶えてる？ 僕たちの約束

『あと五年したら毎日君にキスをする』

浮気な僕たちは、きっと五年後にも二人でドキドキしたりするんだと思うんだ。

きっと今から五年もね

でも、僕たちは五年後には今よりもずっといっぱい抱き合おうね

おじいちゃんになっても、おばあちゃんになっても抱き合おうね

それまで僕はおまじないを信じよう

『五年経ったら一緒に暮らそう』

【きみのあそこの毛】

君のあそこの毛はちょっと濃いかな

毛深い人は情が深いって言うから、君のあそこは情が深いんだね

だから君のあそくに繋がると心が暖かくなるんだよ

もしもきみのあそこがもつともつと大きかったら、ボクごと入
てしまいたい

きつと、この世の中で一番幸せな住処に違いない

だから、君のあそここの毛も僕は大好きなんだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8926f/>

いいかげんな歌

2010年10月8日13時08分発行